



2015-16 年度 R I のテーマ「世界へのプレゼントになろう」

R I 会長 K. R. ラビンドラン (Be a gift to the world)

## 八戸南ロータリークラブ会報

例会日：毎週木曜日 12:30 例会場：八戸パークホテル

●ガバナー 鈴木 唯司 ● 会長 伊藤 斉 ● 幹事 吉田 立盛 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：[hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp](mailto:hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp)

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/>

f Facebook ページに「いいね!」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org/2015/>

### 第 1968 回 例会 記録

《クラブ組織運営委員会担当例会》

2016 年 3 月 10 日 (木)

点鐘 12:30

レポート No. 1400



平光 S A A

### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



### 《会長要件》伊藤会長



先週の土曜日、2015-16 年度の PETS が無事終わりました。ホストクラブとしてどうだったかは参加された方々のご判断によりますが、三戸 RC の西館さん、南部 RC の松本さんのご協力をいただいて何とかうまく出来たのではないかなというのが実感です。お手伝いいただいた皆さんに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。以前にもお話ししましたが、私は 3 回 PETS に参加しました。その時のプログラムを引っ張り出してみましたが、改めて研修の進め方の違いに気が付きました。今までの PETS では最初から最後まで一つの会場で、それぞれのセッションの説明を事細かに受けたのですが、今回はセッションごとの詳しい説明には時間をかけませんでした。最後にグループごとに分かれてそれぞれの担当ガバナー補佐との会長・幹事会議を行いました。手続要覧にあるように「クラブ会長エレクトが責務について学び、ガバナー補佐とともに目標設定にあたる。」という PETS の目的に合致した良いセミナーだったのではないのでしょうか、それと言うのもあるグループのガバナー補佐より会議の内容をメモしてほしいと頼まれまして、小原会員にお願いしました。そのメモをまとめたものを見せていただいたのですが、質疑応答が活発に行われており一方的に話を聞くだけではない有意義な会長・幹事会が行われたことを知ったからです。また、第 1 ゾーンのロータリーコーディネーターである酒井正人様による基調講演では、クラブの目標を立てるにあたって直面する様々な問題点の対処の仕方などをお話しいただきましたが、その中で会員増強の際にぶつかる問題点の一つにロータリーは誤解されていると言うものがありました。昨日早速その壁にぶつかってしまいました。以前より入会を勧めようと思っていた方を訪ねてお話をしたのですが、その方は以前別の会に入っていたが、自分とは合わなかったため退会した、その会にしても、ロータリーにしても奉仕の団体であることは理解できるが、自分の考える奉仕活動とは違うように感じているので申し

### 《出席報告》大橋委員長



正会員数 45 名。本日の出席は免除会員 6 名を含む 31 名、出席率 80%です。前々回の例会はメーキャップ 2 名、出席率 80%でした。平日の 11 時 30 分頃のテレビで「おさんぽジャパン」と言う国分太一さんの番組がありますが、今週は八戸でした。今日は「新むつ旅館」の事をやっていて明日は、「陸奥八仙 男山」さんだそうです。お酒は「百薬の長」ですから、皆さんお酒を飲んで健康になって、来週の出席もよろしくをお願いします。

訳ない、誘っていただいたことはとても嬉しく思いますと言う事でした。ロータリーの魅力をうまく伝える事が出来ず残念です。今回の PETS に参加された会長・幹事さんの中にはガバナー補佐や委員長を経験された方がたくさんいらっしゃいました。会員数の少ないクラブではこのように複数回会長・幹事を務めなければなりません。我が南クラブにしても他人ごとではありません。次年度はガバナー輩出クラブとしてまだまだ忙しくなります。会員の皆様にも色々とお手伝いをお願いする事が増えてまいります。新しい仲間を増やして楽しいロータリー活動を満喫しましょう。お知り合いの方に是非入会を勧めて下さい。よろしくお願い致します。

### 《本人誕生日》



山村会員

### 《奥様誕生日》



桜田会員、

### 《幹事報告》吉田立盛幹事

- ・ザ・ロータリアン誌が届いています。
- ・八戸市より「緑と花」第 22 号が届いています。



## 《ニコニコボックス》吉田賢治委員長

伊藤会長：米内副会長、担当例会よろしくお願ひします。

黒田会員：PETS ごくろうさまでした。私はシカゴでの RI 委員会に出席してきました。

長嶺会員：PETS にご協力ありがとうございました。おかげ様で無事終了することができました。

小原会員：PETS と DTTS の実行委員の皆様、お疲れ様でした。

米内会員：黒田先生よろしくお願ひ致します。近藤さんご心配おかけしました。

三川会員：吉田賢治会員、パネル作成ありがとうございました。

小笠原会員：長嶺さんスカーフありがとうございました。

平光会員：長嶺さんスカーフありがとうございました。PETS おつかれさまでした。

山村会員：三川先生のエントラッセンの本、有難うございます。3月3日生まれでめでたくもあり、めでたくもありません。

本人誕生日：山村会員

奥様誕生日：桜田会員

結婚記念日：三浦晃会員



## 《クラブ組織運営委員会》米内委員長

本日はクラブ組織運営委員会の担当例会で、私は「なぜアメリカにロータリークラブが出来たのか」とか、その土壌について私なりの考察でお話しようと思っていたのですが、今回の PETS の準備などでいつになくまじめにお手伝いしたせいなのか、あるいはセミナーでポリオとか会員増強など色々な事を学ばせて頂いたことで、私の付け焼刃の原稿でお茶を濁すような事ではないと強く思いまして、本来のロータリーの正しい形をお伝えしなければと思い、アメリカから帰国されたばかりの黒田元 RI 理事に無理無理お願ひしました。黒田先生はいまだ RI に強い発言力と影響力を持っているようにお見受けします。このようなお話を直接聞くことの出来る私たちは他のクラブと違って、本当にラッキーなのではないかと思ひます。次週にクラブ細則・規定審議委員会担当例会でのお話が決まっている中、2週続けての講話になり、本当に無理にお願ひして割り込んでしまいました。近藤委員長にも余分な心配をお掛けし申し訳ありませんでした。私たちは日々の変化にどう対応するかが問われている時代でもあります。年々変化してきたロータリークラブの原点としてのお話をさせていただけるという事です。どうぞよろしくお願ひします。

## 《委員会編成について》黒田会員

先週の月曜日に八戸を発って RI の審査運営委員会に行きまして。たまたま新幹線で大澤会員と席が前後だったものですからお声を掛けて、専門的な事をアドバイスして



頂き大変助かりました。アメリカに行く前に近藤さんから来週の例会での卓話を頼まれていまして、来週の準備は前もってスライドを作っておいたのですが、まさか今回も卓話を頼まれるとは思いませんでした。米内さんが今のクラブの委員会編成について真剣に考えておられて、うちのクラブと言う事ではなく、世界のロータリークラブ、日本のロータリークラブではどうしているか、今後はどういう方向に行くのかと言う事についてアドバイスを受けたいと真剣に言われるので、断り切れずにお受けしました。

皆さんのお手元に、私たちの八戸南クラブの委員会編成表と、比較の為に許可をいただいて用意した弘前クラブの委員会編成の資料を置いてあります。私たちのクラブには米内さんが担当しているクラブ組織運営委員会がありその中に小委員会として、出席、親睦活動、コミュニケーション、会員増強、ロータリー情報・退会防止委員会があります。そしてもう一つ大きな委員会として奉仕プロジェクト委員会があります。こちらには、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、ロータリー財団の各委員会があり、国際奉仕には姉妹クラブと米山記念奨学会が含まれています。ホームページに載っている編成表では姉妹クラブと米山の記載が後ろになっていますがこれは前にしたほうが良いと思ひます。ホームページには、作成：広報委員会と有りますがコミュニケーション委員会の中に広報も含まれているという事だろうと思ひます。そして最後に規定審議・クラブ細則委員会がありますが、これをクラブレベルで持っているのは日本でも珍しく、私がガバナーをやった時や RI の理事として色々な地区を回った時も、地区では代議員を選ぶ関係で持っている地区もありましたが、クラブレベルでこれを設けている所はなかったように思ひます。しかも私たちのクラブの規定審議・クラブ細則委員会は委員長の近藤さんがクラブの理事会のメンバーに入っており、3年ごとに RI の規定審議会で変更になった事を整理し、クラブとして大切なものを取り入れて理事会の運営に反映させている。世界のロータリーの流れに遅れずに付いて行っている。私は自分のクラブではありますが、八戸南ロータリークラブは素晴らしいクラブだと、そう思っています。会長の指示を受けて各委員長さんがそれを手伝ってクラブを運営する。次年度は私たちのクラブだけではなく地区内の他のクラブも一緒になって長嶺さんを先頭にやっていく、素晴らしい事です。

先輩クラブである弘前ロータリークラブは創立 60 周年を迎えられ、現在は会員も 49 名と大分少なくなっていますが、次々と素晴らしいパストガバナーを出しているクラブです。私たちと同じようにクラブ奉仕委員会とクラブ強化委員会と二つに分かれています。内容としては大体同じですが親睦にはニコニコと言う名前も入れています。クラブ強化では、選考・職業分類が入っていて、これは日本の伝統的な職業奉仕を重要視する考え方を残しています。奉仕プロジェクト委員会は簡単に書いてありますが、職業、社会、国際、青少年、交換、奨学金委員会と有ります。私としてはプログラム自体を理解させていただいてから寄付の協力が大切だと思いますが、委

員会名をはっきりと奨学金委員会として、その中にロータリー財団と米山記念奨学会とあり、RI で言う所の寄付が明白に出ています。クラブ組織運営と言うのはクラブが自主的にやっているもので、クラブレベルではこういう委員会にきなさいと言うものをRI では作っていますが、それはあくまでも推奨であって、どのような編成にするかは、今説明したように私たちのクラブと弘前ロータリークラブでちょっとした違いが出ています。

特にうちのクラブでは規定審議・クラブ細則委員会があり委員長が理事会のメンバーにもなっており、一方、弘前クラブでははっきりと奨学金委員会としてロータリー財団と米山記念奨学会としています。私としては先ほども言いましたように、お金、寄付よりはプログラムを重要視して、財団とはどういう事を理解する事により、私たちの援助、支援が世界で望まれているのか、米山記念奨学会もプログラムを理解して初めて寄付に繋がっていくと思うのです。国際ロータリーのホームページを見ても英語で Gift、Gift と寄付と言う言葉が各ページに大きく出てきます。アメリカ人にとっては、Gift に違和感はなく、むしろアメリカ人は自分の仕事が成功して収入が多ければ税金対策も含めて寄付するのは当然と言う考え方で、Gift は当たり前なのです。私が学んできた日本の伝統的なロータリーとはちょっと違います。

日本のロータリーの考え方は、今日歌った歌（我等の生業）の内容そのもので、職業人の集まりであるロータリーは仕事の多様性をもっていますが、その仕事の多様性と人格を尊重して心を一つに合わせていく、どういう事をやるかと言えば親睦です。お互いの人間としての親睦を深め、世界平和を求めて自分の向上を目指していく、これが職業奉仕の出発点であり、まさにこの歌の通りです。私は古いロータリアンとして教えを受けてきた中で、今までロータリーを辞めないで来たのはこのようなことが基礎にあるからです。私などはこれから抜けきれない。ところが今はクラブの編成にしても各クラブに自主性を持たせると言うようにどんどん変わってきています。職業奉仕にしても、「職業奉仕」と言う言葉を使わないでやっていこうと言う方針です。どうしても「職業奉仕」と言う言葉を使うと東洋人、特に日本人とかインド人は思想的な考え方、概念にエネルギーを消費してしまいがちなので、国際ロータリーとしては「職業奉仕」と言う言葉を段々に無くして、実質的な職業奉仕の内容は残していくと言う事です。

では各クラブの編成はどうでしょう、クラブの編成はあくまでも推奨ですがここに持って行くために、ロータリーでは今から十数年前に地区リーダーシッププランと言うものを作りました。私がガバナーをした頃にはガバナー補佐と言うものはなく、ガバナーは国際ロータリーの唯一の地区の役員でした。ですから、あくまでも国際ロータリーの会長の考え方、理事会で決まった考え方を、長嶺さんはガバナーに



なったら各クラブに伝えて、各クラブは自主性をもって委員会編成をするように指示し、質問があったらそれに答えてあげて、のびのびと活動させる。地区でこういう行事をやるからクラブの皆さん協力して下さいと PETS で各会長にお願いするのではなく、各クラブでやってください、やれない場合は地区で研修会を持つ、又は講演、スピーチにも行く、あるいはガバナー補佐を派遣する、そういう事が地区の役目でありクラブが基本だと言う事です。クラブがあくまでも自主性を持ってやると言う事です、あまりにもバラバラになってしまうと困るので、3年ごとの国際ロータリーの規定審議会で約束を色々と決める訳です。クラブリーダーシッププランのクラブ編成はその上の地区リーダーシッププランで決まっていますが、クラブを指導するにあたって強制はできない、あくまでも推奨ですから地区リーダーシッププランは RI の唯一の地区の役員としてガバナーが RI 会長方針を皆さんに伝えて、できるだけそれに沿ってやってくださいとお願いする訳です。しかし、ガバナーは時間的に詳しく伝える事が出来ずに、形式的な事しか言えないので、具体的な事はガバナー補佐に各クラブへ行ってもらい、各クラブを訪問しているガバナー補佐が国際ロータリーに報告書を書く事になっています。私の時にはガバナーが公式訪問して報告書を書いていたのですが、今はガバナー補佐が報告書を書く事になっています。地区リーダーシッププランと言うのは推奨ではなく義務です。長嶺さんはこの義務に従って、地区リーダーシッププランに基づいてしっかりやらなければなりません。RI の役員なのでそれに反してマイペースでやってしまうと本部の考えが伝わりません。長嶺さんには次年度、地区リーダーシッププランに基づいて指導してもらいたいと思います。そして各クラブは、クラブリーダーシッププランに基づいて自主的に、積極的にやってもらい、クラブが困った時には地区レベルで応援しますよ、と言うようにやっていただきたいと思います。

私のような古いロータリアンが学んだ原点は今も変わらないと思いますが、奉仕のありかたは変わりました。

ポール・ハリス自身が「ロータリーの哲学は変えられない、哲学なのだから思想や考え方は大切に守らなければならないが、ロータリーのあり方は現代的な社会に合ったあり方でないと存在を持続することは出来ない」と言うような事を言っていると、今日いただいた「ロータリーの友」の最初の方に次期 RI 会長が書いています。例えば職業奉仕のプログラムで私たちは「よろず相談」と言う素晴らしい事をやっていますが、そのプログラムを実行しても、今年度も次年度も RI 会長賞対象のプログラムには入っておりません。このように RI では職業奉仕のプログラムよりは「人道的プログラム」をやってほしい、ポリオを中心に、子どもたちや色々な病気、或は貧しい人たちのために人道的な面でやってほしいと言う方向にどんどん変わってきており、これが時代の流れです。しかし委員会編成ではクラブの自主性があっていいのです。私が今、感じていることは、世

界で今ロータリアンが増えているのはアジアだけです。アメリカやヨーロッパでは会員が減ってきています。日本は減少にやっとストップがかかったところですが、隣の韓国や台湾、フィリピン、インドネシア、タイなどの東南アジア、そしてインド。インドではすごい勢いで会員が増えているので、アジアのロータリーのエネルギーを無視することは出来ないと RI では痛感しております。そしてアジアのロータリアンの意向をもっと尊重して行かないといけません。むしろコーディネーターなどの役員を決めるのは、アジアはアジアに任せたほうが良いのではないかと、本部で決めるのではなくアジアに任せても良いのではという意見もじわじわと出てきております。このように重要な変化が出てきておりますが、我々アジアのロータリアンが、経済的に世界中が大変な時代ではありますが、国際ロータリーを支えていく、ポリオもいよいよアフリカにも無くなってあと 2 カ国に絞られました。しかしポリオには非常にお金が

かかります。パキスタンなどの紛争地帯ではポリオの投与にしても護衛が必要で、護衛を付けるのに非常にお金がかかります。ポリオのワクチン投与での犠牲者は現地の保健衛生員などですが、今までに 80 人に上ります。30 年以上かかってもポリオはまだ完全に無くなっていません。もう少しの所に来ているのですが、パキスタンやアフガニスタンでは反対勢力に対し政治的にお金を渡して 2、3 日の停戦期間を設けてもらいワクチンを投与しなければならないのでお金がかかります。このようなことは私たちロータリアン、世界のロータリアンだけの力ではとてもできないので、色々な組織に協力してもらい、ビル・ゲイツ財団とか世界的な製薬会社とかに協力をお願いし、市民にも広報を行って実行しています。このような形に変わってきていますのでクラブの組織にとって広報委員会と言うのは非常に重要だと言う事です。